

峠物語二



馬之助大神
子とこの守り神。
旧3月7日大祭。
177-スポンサー。

長命の水
炭火を名入のおじいさんが
炭がまで仕事にあくって飲んだ
岩清水が「あまりにもおいしかった
ので「長命の水」と命名して
道行く人々がたのしんだ。
「生水は控えて」と書いてあるが
ジョブもおいでしてくれている。

住次郎
片魚

旧富山
地酒とめば

片魚口と馬荷には
鬼がこの道を歩きながら
おこしした大岩がある。
この山道も
かつての生活の道
往還道!!

大屋敷〜上川口を結ぶ往還道。
塩を買いに通っている。
塩と山の幸や米と交換している。
大人について子どもも歩いた。
人の営みを紡いできた道。

塩の道

峠道や往還道には
人々の生活をつないだ
あしおとやぐらしのぬいこ
刻まれている。

県道55号・大正〜大方線。
二つの峠を越えて
四万十川と太平洋を結ぶ
生活の道。
打井川〜上川口の間は約31km。
変化にとんだ景色がつづく。
曲がりくねっているけれど
里の人々が行きかう
暮らしを支える大切な道。
落ち葉やコケもあるし
急カーブも多い。
あせらず「急がず安全運転」
黒潮町〜四万十町を
つなぐ道。

打井川から常六まで、その子
一日かけて登りておこなう

大正から佐賀まで
熊野神社大祭の
潮水とくみに通った道。

道文神社
尊良親王の忠臣
道文、武文兄弟を
奉祀。
旧2月3日大祭。
数々の御利益
ある霊い神社。

仏ヶ森
弘法大師が「この地をおとすれ
千の谷があれば」八十八ヶ所の札所を
建立しようとしたが、あまのじやくが
谷もひとつ隠れていたため、999しか
数えることができず、札所が建立
されなかったという伝説がある。
山頂には石祠と鉄塔があり
まわりの山々を見わたせる。
トンネル北口より登山道。
四圍の半分を見わたせるかん。
山頂の祠には阿彌陀如来が
まつられている。

尊良親王の仮御所が
あった王野山が現在は
大野山国有林となっている。

千代の石身
元弘の乱で幡笥に流された
尊良親王の為に、毎夜、二里の
山道を通って食事とどけ
せ話をしていた、長だてのよい
器量よい娘、千代が身を
投げた岩。

大方から打井川にかけては尊良親王に
まつる言い伝えや地名が残り残っている。
尊良親王(1310頃〜1377年)とは
鎌倉時代後期から南北朝時代に
かけての皇族。後醍醐天皇の皇子。
元弘の乱に敗れて土佐国に流される。
土佐を脱出後、足利尊氏に対して
上將軍として新田義貞と共に討伐軍を
率いて戦う。
1337年、越後国金ヶ崎の戦いで
散る。
(たかながしんのう、たかなしんのう)二つの読み方。